第４回松戸市２０２０年東京オリンピック・パラリンピックやさシティ おもてなシティ推進会議　議事録

１．日　時　　平成２８年８月２９日（月）１３時～

２．場　所　　松戸市役所　新館５階　市民サロン

３．出席者　　別紙のとおり（委員１１名のうち７名出席）

４．傍聴者　　なし（傍聴希望者なし）

５．会議経過　(1)開会　13：00
(2)長江会長挨拶
傍聴確認（事務局より傍聴者なしとの報告）
資料確認（配布漏れなし）
議事録署名確認（名簿順につき薄葉委員に依頼→了承）
(3)報告１　松戸市 2020 年 東京オリンピック・パラリンピック やさシティ おもてなシティ推進 第 1 次行動計画について
(4)議題１　松戸市 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組みに関連する今後の検討課題について
(5)閉会　15：30

６．議事概要
○長江会長
それでは、行動計画の４つの柱について委員の皆さんから御意見をいただきます。まず第１に、行動計画の表の中の一番最初にある人材育成について、ボランティアの育成とか支援なども含めて御意見をいただければと思います。
飯沼委員、いかがでしょうか。
○飯沼委員
まず、このボランティアはもうすぐに始めなきゃいけないと思うんですが、通訳、それからホストファミリー、具体的に何をどうしていくかというのを提案いただきながら、国際交流協会でも、まだ具体的には動いておりませんが、今までの国際交流の中で通訳の方、申し出はいただいています。それから、ホ

ストファミリーの申し出もいただいていますが、もう少し人数もふやさなきゃいけないと思うんです。ですから、他市とか国とかも含めて参考にしながら、本当にオリンピックも間近になりますから、特にボランティアの関係は早目に。特に学生、大学の学生とか高校生、あるいは中学生でも、オリンピックにちょうどかかわってくるような子供たち、いろいろなボランティアが必要だと思うんです。ですから、幅広く、中学生ぐらいから、英語を話す、いろんな面のボランティア、接待の面とかおもてなし、いろんな協力の仕方があると思いますので、その辺を、皆さんにも御意見をいただきながら具体的に早目に提案して、募集していく必要があると思っております。

○長江会長

杉浦委員、観光とか、そういう点でもボランティア、さまざまな形で必要ですというような話もあったんですが。

○杉浦委員

そうですね。やはり松戸の文化・観光をおもてなしするときに、１つのルートを早急につくる必要があるかと思うんです。日帰りで戸定邸と東漸寺、八柱霊園も含めていろいろ地域の文化、矢切の渡しとか、見せるルートを１つ観光協会に持ち込んで、そのルートをつくって、これで１日回れるということで、そこにボランティアをつけて松戸の文化・観光を初めて来た方に、ドミニカから来た人に御案内できるような、それも具体的に示さないと、さっき飯沼委員がおっしゃったように、時間もありませんので、早急にルートぐらいは決めて提案したいと思います。

○長江委員

池邉委員、いかがでしょうか。

○池邉委員

ボランティアのお話は、東京都がかなり膨大にするとなると、やはり松戸市として早目にその方々を確保しなくてはいけない。そのときに、飯沼委員からも中学生とか高校生というお話がありましたけど、私は何か松戸ならではの登録方式、要するに松戸市民にとってもよくなるという、親子登録とか３世代で登録するとか、ホストファミリーの関係もありますけど、何かそこで松戸らしさみたいなものを、あと夫婦で登録とか、学生ですとクラブで登録とか、そういうような登録の仕方に少し特徴を持たせて、それが松戸市民の新たなきずなを生み出すような、何か話題性のある登録の仕方というのができないかなと思います。

実は先月、千葉県主催の日本遺産の北総四都市ということで基調講演をさせていただいたんですけれども、香取市の佐原のまちの中に、「さわらぼ」といって佐原高校の高校生たちが、自分たちのまちで、クラブ形式で佐原を紹介する

ようなことをやっているんです。大学生もいいんですが、正直言いますと、大学生って必ずしも松戸育ちではないので、松戸愛というんですか、まさにそこが少し足りない。例えば戸定邸についても、先日私のところに来ていただいて、新しく公園の整備のお話もいただいたんですが、そういうところを高校生と大学生が一緒になって取組むとか。やはりまずは、ボランティアをするからには松戸愛というか、松戸らしさというものを、市民の人たちが松戸を大事にするという気持ちを持つこと。それをまず醸成しないと伝えることができないので、それにも役に立つようなボランティアの育成。

　ですから、まずは育成したときに、登録したはいいけど何もやることがないというのが一番まずいと思うので、そこでそれぞれの、中学生、高校生あるいは大学生、リタイアメントの方々もいらっしゃると思うので、各世代がどういうことができるかというようなプログラムを用意してあげる。コーディネートというお話がありましたけれども、そこら辺を少し綿密に打って、何か登録の仕方に、例えば３世代で登録すると３世代の登録票の様なものがもらえるとか、少し特徴をつけてモチベーションを上げられるようなボランティアの方式があるといいのかな、と思います。

〇長江会長

　スポーツの面でいかがでしょうか、岡本委員。スポーツもたくさんボランティアが必要になりますよね。

〇岡本委員

　私は、今話を聞いていて、確かにもう４年を切ってきましたよね。そういう面では時間的に、早くやっていかなくちゃいけないかなと感じます。ボランティアについては、今あったように、大々的に市民に対して、こういうオリンピックについて、ボランティアをやっていく人を、しっかり松戸として育成していく。それから、募集について、それをしっかりＰＲするということが必要だろうと思うんです。その辺から手をつける必要があるのかな。それをやることによって、推進会議もあって、オリンピックについてこういう動きを、市としてやっているんだよというのをＰＲすることも必要でしょうから。

〇長江会長

　斉藤委員。

〇斉藤委員

　中国の広州でアジアパラリンピックがあったとき、学生、多分大学生だと思うんですけど、何人も、後でマンションになる選手村の下にいっぱい待機しているんですが、１人日本語がすごく得意な子がいまして、まさかと思ったんですけども、中国は好きかとか、広州は好きかとか、そういうことをいきなり聞かれました。そこでそんな話が出るとは思わなかったのでびっくりしたり、韓

国では、日本語が得意な大学生がいて、焼き肉屋にまで案内してもらったりと。ああ、やはり違うなと。多分長い間準備して、組織して準備してくれたんだと思うんです。
○長江会長
　すごく大切な部分で、おもてなしとか、あるいは交流という意味のボランティアも、本当に国をアピールすることにもなりますし、民族性というものにもかかわってくるという。本当に準備が重要です。
○斉藤委員
　あんなにぺらぺらなので、多分日本語学校の人で、よっぽど日本に興味があるとか好きだという子だったんだと思うんですが、そんなことがありました。
○長江会長
　それでは、薄葉委員、商工会議所の方面からもたくさんの、いろんな形のボランティアというのがあると思うんですけど、いかがでしょうか。
○薄葉委員
　具体的なイメージが全然湧かないんですが、多分そのまちへ行ったら言葉が通じて、親切な人がいて、このまちの特色についてお話しできる人が大勢いて、専門的な人だったり、そういうことをボランティアという言葉で皆さんがお話ししたんだと思うのですが、事前キャンプをやってどのくらいの人が来て、その人たちが日中どういう行動をして、外国人の衣食住があるわけですから、それをどういう形でまちの商業者、商店、商店会が担っていくかということが、全然まだイメージが湧かない。ただ、少しずつ変わってきているので、例えば１００人しかいないんだけども、１，０００人が全部外国語がしゃべれてというのは、すばらしいんですけども、一定の時期が来たとき、１００人来たときに誰が応対するかとなると、市民、商人に声をかけて、手を挙げた人を育成していくしかないのかなと。１００人しかいないのに１，０００の商店みんなに同じ号令をかけても、同じ努力をしましょうというのはなかなか難しい。そうすると、どのくらいの人が手を挙げるか。そこから具体的なことがスタートするのかな、という気がするんです。
　あと市内でも、どの辺に合宿場所があるかということによって違います。最寄りの駅はどこが近いとか、日常的な生活の需要をどのように満たしてあげるか、そういうことができるだけ早くわかるといいですよね。
○長江会長
　それぞれの角度でボランティアが存在すると思いますし、それに対するＰＲも、情報をできるだけ早く、それから、募集の仕方も、松戸独自の楽しみ方のある、わくわくどきどきするような登録の仕方。それから育成していくプログラムは、準備ができている人たちもたくさんいるけれど、その人たちを中心と

してまた広げていくということが十分可能ということ、子供からリタイアされた方々までの、有効な力をいかに引き出すかということからいうと、やはりボランティアを受付ける、あるいは企画する窓口が明確で、そういうものが機能しているということが極めて重要だというふうに思いました。

また市内の高校も、地域がいろんなところにありまして、例えば松戸は広くて５つぐらいのブロックに分かれると思うんです。矢切方面とか六高台方面とか北小金のほうとか、旧村単位と町単位で分かれると思うんです。そこに都合よく松戸国際とか、松戸市立高校とか六実高校とか、存在していますから、そういうものと大学生が、市内４大学がうまくコラボするというのはすぐれたプログラムだと思います。中学生も４年後にはもう十分ボランティアに参加できる年代になっていくということがありますので、市内の中学校との連携の部分もすごく重要かと思います。

それから、実は聖徳大学で松戸の文化を伝えるようなマップづくりをやっておりまして、イラストマップで、松戸市の印刷の予算でつくらせていただいています。例えば矢切地区とか北小金地区とか、6つぐらいでき上がっているんです。それを英訳するとか、そういうことで、これまでやってきたものを活用できるかな、という部分もあるので、ゼロからやらなくてもこれまでの資源をうまく生かすということ。

それから、松戸駅でびっくりするというか、残念だと思うのは、観光案内所がないということです。実をいいますと、そこが一番重要かなというふうに思います。ＪＲの駅に降り立ったら案内所があって、そこでは英語でも対応してくれる、日本語でも対応してくれる、中国語でも。あるいは、韓国語の松戸市の案内マップがあったりする。１０万、２０万人の都市でもあるのに、松戸にはないというのが本当に驚きます。それをぜひ、そんなに予算をかけずに早急にやれることの１つではないかなと。それを、見える化すれば、オリンピック対応しています、というのが駅でわかるわけですから、一番いいＰＲです。お土産物を紹介する一覧表が載った観光協会のパンフレットも、常に置いてあって、観光客が来たらどんどん渡せば買ってもらえるし、そういうことをできるだけ実際にやったほうがいいと思っています。

○薄葉委員

不動産関係の人の話なんですが、泊まる場所をどうするんだと。もちろん選手も来るけども。それから、周りに知り合いとか親子とかいろいろ来ます。その話には興味がありそうですが、ホストファミリーの話がありました。そういうのも含めて有料であれ何であれ、どこに、どのくらい集まるんだという量の話が出ないと。みんなで親切にして、来てもらったら松戸の特色を話して喜んでもらおうよといっても、これは何だと。言葉はわかるけども、具体的には何

もわからないんですよね。だから、そういう量みたいのを、役所だって間違っちゃいけないということがあるから、あまりいいかげんには言えないんでしょうけど、推定の数字、このくらいの人が来たらこのくらいのものが必要だということは議論しないと、経済人から見ると、何だかわからない。そういう感じがするんです。

〇飯沼委員

松戸の案内所を、例えば駅のどこかにつくるとしたら、ボランティアで中国語、フランス語、英語、その他をやってくださる方もいます。というのは、国際交流協会で松戸国際文化大使という制度をつくり、もう１０数年取組んでいて、自国の言葉で自分の国のＰＲをしてもらっています。日本語もお上手な方もいるので、今、２３カ国語ぐらいお願いして３０名ぐらい。毎年９月に交代するんですが、非常に自分の国を大事にしながら松戸も大好きだという方がいて、お手伝いしてくれると思います。

あと、オーストラリアに姉妹都市４５周年で５月１１日から１週間ほど行ってきました。松戸市民の代表の方、一般市民の方で結構英語が得意な方がいらして、５３名のうち３３名が市民レベルの交流をしてきました。松戸市は非常に立地条件がいいので、東京に通われる方がほとんどですから、優秀なサラリーマンの方、あるいは、いろんな企業の方、たくさんいらして、英語が得意な方、スペイン語が、フランス語が得意な方。何かお手伝いすることがあるんだったらオリンピックに向けて協力したいという人も、既に何人も受けています。ですから、具体的に何をどういうふうにいつごろ募集するとか、内容を決めるとかというふうにして発表すると、少しずつ集まってくると思います。

私も松戸で生まれて育っていますけれども、松戸市というのは他の市と比べてどうなのか。梨も戸定邸も大事だと思います。松戸のいいところ、ＰＲしたいところ、21 世紀の森と広場もそうでしょうし、古いお寺もいっぱい、神社もありますし、そういうものを子供たちにも伝えながら一緒に勉強して、松戸市の文化をみんなで確認し合う最高のチャンスかと思うんです。オリンピックは、どちらかというとスポーツという感じがしますけれども、スポーツ文化ですから、こういう機会に国際交流、国際理解のいろんな視野を広げるチャンスだと思うので、すばらしい「夢の教室」もやっていますから、教育委員会とも連絡をとりながら。

今、幼稚園の子供からオリンピックに興味を持っています。今回リオ大会がありましたので、小学生、中学生、高校生、みんなオリンピックに興味、今後これをやってみたいとか思っているくらいなので。まず、家族でホストファミリーを受けられるような、気持ちよく楽しく日本で過ごしてもらうこと。選手の方は特殊な訓練が必要ですが、一般の観光客の方とか、姉妹都市のホワイト

ホース市からも、観光を兼ねてオリンピックの応援にも来ると思うんですね。そういうときは、市民レベルのホストファミリーがいっぱいあって、本当に楽しく交流が深められたらいいな。それがオーストラリアだけでなく、今、松戸には７０数カ国の方がいますから、それぞれの国の人たちをみんなで楽しく迎えられるように、情報を発信しながら募り始めたほうがいいのかなという気がしています。

オリンピックを通じてスポーツのすばらしい頑張りと努力の中で教えられることはいっぱいありますが、それも含め国際交流、国際理解、異文化理解の一番いい教材を与えられたオリンピックだと思うので、松戸市の特色のあるもの、これだけは絶対大事にしたい、松戸にしかないものなどいっぱいあると思うので、何に焦点を絞るか決めてオリンピックに向けて対応すれば、子供たちも、親も喜ぶし、市民全員が楽しめるかなと思います。

国際理解の一番いいチャンスを与えられたときに、小、中、高、大学生、また大人、大先輩のシニアの方、優秀な方がたくさんいらっしゃいます。大使館にお勤めの方、商社で海外に何十カ国と行った方とか、ボランティアをお願いすれば、多分手を挙げてくれると思います。

〇長江会長

ボランティアの育成・支援では、ＰＲの仕方とか仕組みづくりというようなことでさまざまな御意見をいただきました。

次に、文化の発信、国際交流、国際化、文化プログラムの推進など、御意見をいただきたいと思います。

池邉委員、ほかの都市から参考にできるようなことで、松戸らしさの発信という面でお考えがありましたら、お教えいただきたいんですが。

〇池邉委員

先ほど、日本遺産ということで、成田と佐原と佐倉と銚子ということでお話しさせていただきましたが、実は佐倉で民泊をやっているところがありまして、まさに佐倉の歴史的なところの一角です。 そこは、実は普通の民家で、布団屋だったのですが、いわゆるシャッター街になっていたんです。そこを若い方で、英語ができる方が借りられて、民泊だけだと結構難しいんですが、上が民泊で、下はシェアオフィス、もう１つ、コミュニティルームで、コミュニティの方にも貸して、ダンスをやったり英会話をやったり、そういうところがある。そこで民泊をやって何が大変かというと、御飯なんですね。そこではおもしろいことにキッチンカーを日がわりで呼んでいまして、それで、地域の方とか、あるいは、お子さんもそこで一緒に食べることで、特にそこに来ている民泊の方は、海外の中でもアジアではなく、ＥＵとかの方が多いらしいんです。そういう方とお子さんと、そこで片言の会話が始まって、お子さんがそういう方を連れて、

身振り手振りでまちを案内するというようなことも始まっているそうなんです。
　戸定邸でも、いろいろ取組みを進めていますけれども、やはりどうやって行ったらいいか、わかりにくい。ルートというお話もありましたが、御案内するとどういう形で、市内で１時間、２時間、あるいは、滞在して長い期間の方もいらっしゃると思うんですけれど、他の都市も組み合わせるのかどうかも含め、成田から来てどういう形で組み合わせられるのか。
　あと、それが、オリンピックではなくて、事前のキャンプというお話がありましたので、それを見据えて、佐倉なんかはもう既に運営していて、民泊については実は黒字で全く赤字がないそうです。いろんな形で、口コミでほぼいっぱいという状況です。そういう部分が始まっているという感覚が今はないので、松戸らしさも含めて、どういうところから手始めにやるのか、駅前とか坂川とか戸定とか、いろんなプログラムが出てきていますから。事業としては２年先でないとできないとか、でき上がらないというのはあると思うんですが、ボランティアの登録をして、まずは１時間、２時間でどういうことができるか。駅前から始まって、どういう案内ができるのかという、そのあたりのプログラムを文化とあわせて組めるといいな、という気がします。
　もう１つは、先週、稚内に行きまして、それはシーニックバイウェイ、まさに自転車でどう都市を見せるかということで、地方都市でもシーニックバイウェイということで、自転車での都市づくりを進めています。ですから、先ほど競輪の話もありましたし、自転車のコースの話もありますけれども、そういうところもまずは市民で、みんなでサイクリングして松戸市内を走ってみよう、という様な取り組みから始めて、だんだんと海外の人も入れてとかいう形で段階を踏んで、今すごく温度が高まっていますよね。この温度を、皆さんがテレビで見てオリンピックというふうになっているところが静まらないうちに、松戸でもやるんだ、という事を伝えられるといいな、という気がしました。
○長江会長
　どうでしょうか、杉浦委員。
○杉浦委員
　例えばホームステイ。ホテルはないけれどもホストファミリーはたくさんある、というには、何が本質的に必要なのかというと、来てくださる人の身元確認が必要なんです。いろんな国から来ますので、その人の身元確認が済めば幾らでも受け入れられると思うんですが、それを誰がどこでやるかということです。結構大変なんです。向こうの家族の写真を取り寄せたり、向こうの仕事は何をしているんだ、幾つぐらいの人が来るんだ、女の人が来るのか、男の人が来るのかと。その情報のやりとりをする事務局をどこの誰がやるのか。ホームステイを受け入れるというのは簡単ですが、現実的には難しい。それで、成田

へ来て誰が迎えに行くのか。ホストファミリーが行くにしても、顔も言葉もわからなければ始まりませんから。成田までお迎えに行かなくちゃならない。ホームステイを受け入れるにしても、そういういろんな細かい雑務を役所のほうで、行政のほうで対応するとなると、結構、言うのは簡単ですが、いざやるとなると大変な作業があるということを自覚しないと、ホテルはないけどホームステイはあるよといっても、現実的にはなかなか厳しい。受け入れる家族もたくさんありますけども、その辺の身元確認が大変なんですよね。そこら辺もわかってやらないと。

それと、オリンピックが終わったら終わりじゃなくて、オリンピックを契機に語学や、いろんな文化も継続していくような、せっかくこれをつくったのを、オリンピックが終わったら全て終わりじゃなくて、もっとそれをずっとそれを機会に継続していくような、語学の研修でも、文化でも何でも、そんな目線で企画をすればちょっと違うのかなと思います。

○長江会長

これを契機にずっと継続していくということからいうと、外国からの観光客の方も２，０００万人が今度４，０００万人になるとか、そういう形でどんどんふえてくるわけですよね。ということを基本として、日本にたくさんお金も落としていただけるし、さまざまな形で交流も深まっていくということで、オリンピック・パラリンピックをいかに契機としていくか、ということです。

○杉浦委員

そうですね。これ、大きな踏み石になるんじゃないでしょうか。松戸はあまり観光の都市じゃないけども、結構外国の方がいらっしゃるためには、これを踏み台にしてそこまでの目線で取り組む、という考え方を持っていけば、松戸も、地理的には非常に近い距離ですからもったいないですよね、これを生かさないと。だから、これを機会にぜひ国際的な都市になれば、すばらしいと思うんです。

○飯沼委員

夏休み中、盆踊り、地域でありました。外国の方が浴衣を着て盆踊りを踊っている姿を見て、自分の国と違った文化を感じているのが、よくわかりました。今回フィジー島から、うちの卒園児の保護者、お父さん、お母さんがＪＩＣＡで働いていて、御夫妻、フィジーの御婦人と英国のお父さんがいらして、ものすごく楽しんでいました。こういう経験を、何回かしているんですが、そういう国際活動をしている知り合いの方が、松戸に多くいます。自分の好きな国とかみんな持っていると思いますが、これだけたくさんいると情報を集めれば、そういう国の人との交流の窓口ができる可能性があると思います。

せっかくの機会だし、今がちょうどいいチャンスで、小さい子供も、実感と

してわかっているので、そういう時期を逃さない。しかも、これはもう永遠に続く。国際化はもう日本で必要なので、いろんな意味の実感を伴った国際化のベストチャンスだからということで、これからスタートしてずっと松戸から発信しながら続いていく国際化、異文化理解の社会をつくっていく。そういう長期計画の中のステップで始まることが大事かと、思っています。

だから、市のほうも窓口をどこにするか。公益財団法人は、２０数年間やっているんですが、今年４月から文化観光国際課が、できました。この推進会議もありますし、３団体でよくお話をして、どこでどういうものを管轄でやっていくのか、その辺も整理する必要があるかなと。だから、市の関係だったら文化観光国際課でやる。国際交流協会は、どちらかというと市民レベルを中心にどんどん交流を進めて、松戸市に国際課ができたらいいなというのが目的でずっとやってきました。文化観光国際課ができましたから、ある程度姉妹都市の関係はそこでやりつつあるんですが、その辺の整理をして、国際化の担当部署をお互いに確認しながら、松戸市からの文化発信ができる、それを考えられたらいいかなと。国際交流協会でもできるだけ努力は、やっていきます。すごくいい外国人の方がたくさんいます。国際交流協会はボランティアで成り立っているので、オリンピックにどういうふうにお手伝いできるか、今考えているところです。

○杉浦委員

もう推進という時代じゃなくて、推進会議なんて、もう東京でもオリンピック担当大臣もいるし、組織委員会もちゃんとしているから、松戸もオリンピック担当課長というのをすぐつくるべきだと思います。推進なんて言っているようじゃ、もう１０年も前の話で、担当課長が欲しいと思います。そうすると仕事がしやすいし、推進なんかやっているともうすぐに２、３年たっちゃいますので。推進本部とか推進会議じゃなくて、担当課長がいて、その人が原案をつくって落とし込んでいくというようにしないと、推進というのはもう終わったことです。オリンピック担当課長がいてもおかしくないと思います。

松戸にも担当課長ができたよと。何をやるかはまだとしても、今これをやっているわけですから、担当課長をつくったほうが、すぐやる課の課長をつくるぐらいに、ぜひ担当課長をつくるべきだと思います。それはマスコミに受けやすいし、メディアにも。

○長江会長

そうですね。市民への呼びかけもわかりやすいですね。

○杉浦委員

そうです。そこが全ての窓口になって、そこから、では担当は誰にしよう、これは国際交流へ持っていく、これはどこへ持っていくというふうに仕分けし

てやったほうがいいと思うんです。
〇長江会長
　では推進会議としては、担当課長、窓口一本化という。わかりやすい設置をという。
　そのほかに皆さんのほうから御意見をいただきたい点は、これを機会に文化プログラムも、松戸文化の発信も、それから、国際交流という御意見がどんどん出てきているんですけれども、そのほか、オリンピックというのは、やっぱりオリンピック・パラリンピックを通して選手の育成とか、さまざまな部分でやっぱり応援をしていかなくてはいけないという点があると思うんですが、岡本委員、スポーツ振興、それから、スポーツ関連のほうで選手育成など、御意見はございますか。
〇岡本委員
　体育協会の会長として、こういうところがしっかり普及していくといいなというのは、ここにスポーツ科学の活用とありますよね。オリンピックの選手あたりは、本当に科学的にしっかりできた施設の中で、スポーツ心理学など、メンタルスキル、そういうことをしっかりしていくのが一番大切だと、このオリンピックを通じてよく言われていますので、そういう施設がこれを機会に松戸でもできればいいという感じは持っています。これはもちろん金もかかることですが。スポーツ施設にいろんな機械を置いてやるところもあります。それなりに私立のそういう施設もあるけども、やっぱりこれだけ科学が進歩した日本の中で、本当にそういう粋を集めた、競技力の向上についてもしっかり役立つような施設ができればと思います。
〇長江会長
　ハードの面の施設もそうですが、ソフトの面も、情報を含めた形でそういう指導者、人材、分析員の様な。
〇岡本委員
　ラグビーの五郎丸選手に関連して、スポーツ心理学でチームの担当をやっている若い女性で、陸上か何かをやる選手。その人のスポーツ心理学の話を、ラジオで聞いたんです。 なかなかいいことを言っているなと思っていて、そういうところにちょっと興味があるんです。選手の育成、人間的な育成ということも、大切にしなければいけないなと思います。
〇長江会長
　柔道の復活なんかはそういう部分が極めて大きかったみたいですね。
〇岡本委員
　そう思いますね。
〇斉藤委員

メンタルトレーニングというのがすごく入ってきているんですよ。
アーチェリーの強化選手、一月置きに合宿するんですけども、大阪と味の素のナショナルトレーニングセンターと交代でやるんですが、必ずどこかの心理学の先生が来てメンタルトレーニングをする。 スポーツにとてもかかわっている心理学の先生ですけども、とても重要になっている。まあ、アーチェリーは、特にメンタルスポーツだと思うんですけれども、必ずやります。

○池邉委員

それと関連して、実はこれは県レベルなので、ちょっとレベルが違うんですが、埼玉県では、今まさにいろんな最新機器、心理トレーニングも含めて、県立の公園に導入して、市民の毎日のヘルスというか、健康にスポーツのさまざまなトレーニングをやる機器、あるいは医療機器関係の方々と提携して、取組みを進めている。市民の健康がこれを機会にアップできる、心理的な部分も、高校生だろうと中学生だろうと、全国大会に行くときもトレーニングを受けたからこそ強くなれる。そういう部分も含めて、事前キャンプでは、そういうところがどういうふうに用意できるのか。オリンピックだけを考えると非常に高コストなんですけども。 その先、松戸市民が健康に暮らしていけるようなものとして、まさにレガシーとして松戸運動公園にも、そういう形のものが残っていくというような事を考えると、まさに松戸市民のためにもいいということだと。 市民も非常に受け入れやすいと思うので、そういうことを考えるといいかな、という気がします。

○長江会長

本当にそうで、一部の育成だけじゃなくて、後々健康のためにというのは本当に言われるとおりで、すばらしいと思います。

それから、実は運動公園が松戸市の駅から遠いというのが１つあります。 そこを例えば自転車とかで、エコでつなぐとか。 あるいは、松戸の駅の周辺だったら、江戸川の土手をウオーキングするとか、走るとか。そこも自転車で行けるとか、カヌーも、水上スポーツもできるんですけれども、それプラス何かうまく、スポーツをしようと思った時に、着がえる場所があるとか、施設、先ほどのメンタルとか、ちょっとサロンになっているとか。そんなにお金をかけなくてもつくれるようなもの、あるいは利用できるものがその周辺にあれば、そこを使っていただいて、市民がいつでもスポーツできる。国によっては公園に行くといろんなものがあって、ただで使えるとか、そういうような楽しいものが子供からお年寄りまで、そんな感じで、本当にお金をかけなくてもできることがたくさんあるので、そういうものにつなげていくということが極めて重要かと思います。

きょう、欠席の４名の委員は、リオデジャネイロの現地に行って、お休みと

いう方もいらっしゃるので、また１０月以降の会議の中で具体策を話し合うことは、部会とか、そういう方面で、深めていただくことは可能じゃないかなと思います。
　スポーツに関しましては、御意見はよろしいでしょうか。育成も進める、という方向性でよろしいでしょうか。
　それから、地域創生とか国際化について。先ほど、民泊について、不動産業界はすごく意識しているけれども、量がわからないからやりようがない、という話がありました。実際に何人かの委員からお話しいただいたように、全部が決まってから走り出すのではなく、やれるところから進めていく。
　また、松戸はかつて直轄地で、江戸文化も残っていますし、さまざまな形で、できる限り情報発信する。国際観光大使も松戸観光大使も多くいらして、ずっと取組んでいるんだけど、何をやったらいいか、みんなわからないと。そういうような事をコーディネートするところが一番重要だし、見える化 するということが何よりだと思うんです。
○飯沼委員
　今、シティガイドを結構やっているでしょう。
　日本語だけではなくて英語の勉強会をやって、もうかなりプロの方に近い。それもやっていますし、それがいろんな国に広がっていますが、おっしゃったとおりコーディネートする人がいないんです。それぞれやっているんだけど、全体を組織立てるというか、推進するようなものがちょっとないかと思います。
○長江会長
　聖徳大学は駅前で生涯学習をやっているんですが、そこで語学でも７カ国語を学んでいる方がいます。そこに呼びかけて、ボランティアをやる人はいませんかと言えば、応募する人がいると思います。ただ、それを、窓口、担当課、旗を振る人が、駅前の観光案内所でわかっていて、キックオフされたところはもう始めないと、考えているだけで終わってしまうことになりかねないです。
　商工会議所はすごい知恵袋で、さまざまな形で部会も多くあります。何かこのオリンピック・パラリンピックを契機に商工会議所としての動きみたいなものはございますか。
○薄葉委員
　うちの常任委員会 会議が月に１回あるんです。そこでこの結果について発表しろと言われて、きょう来て、ふだんの会議に臨むよりも、発表しようと思っているから一生懸命聞いているんですが、抽象的で具体的なものが何もないんですよ。それで、ふと見ていくと、やっぱり「夢の教室」は具体的だなと。事前キャンプの誘致もある程度できたのかなと。
　ただ、そのとき何名で誰だということはわからない。そして、もう１つ、選

手の応援はしています。
　具体的なものはそのくらいですよね。そして、自分が考えていたことは全然別で、委員の皆さんや会長の話を聞いていて、やっぱりもうこうなったら駅前に案内所をつくってしまう。そして、ボランティアが必要なら、募集ではなく、もう名前だけ登録するとか。そして、２カ月３カ月に１回でも、英語の勉強会をやるとか、そういうことをやっていかないと、何をやっているかわからない。
○杉浦委員
　私も観光協会と商工会議所と両方携わっていますけども、民間的には何か仕事をしたいんですけども、見えないんですよ。松戸にどのぐらい観光やオリンピックで人が来て、どのぐらいするのか。業務として、部として立ち上げて、民間として、じゃあ、こういう事業をしよう、こういうふうなことをしようといっても全く見えないですから、質問されても、薄葉委員がおっしゃったように、会社としてはもう立ち上げないと、そのときに商売をしたいわけですから、オリンピックのときに。
　でも、何をしたらいいの、商売は。何から手をつけたらいいのと不動産屋からも言われたりして、そういう状態です。何か商売とセッティングしたいんですけども、見えないのが現状です。どのぐらい松戸に人が来て、どんなことをしたら商売が成り立つのかなと、その辺が経済的には全く見えていないです。
○長江会長
　今回この推進会議の中でかなり熱く話されている基本的な部分は、動き出すきっかけを早くしていただきたいという事と、それから、見える化というか、顔の見える部署というのが具体的に出ましたし、そういうことに関してぜひお願いできたらと。本当にいろんなアイデアがあるかもしれませんけれども、やはり少しずつでも動いているということが市民にアピールされれば、あるいは経営者の側でもさまざまなことを、支援も出てくるし、具体的なことが情報発信できるのではないかと。
　あと、松戸の文化の発信という点からいえば、松戸はさまざまなことで、梨とかネギとか食文化とか、重要文化財の戸定邸とか、寅さんの柴又と矢切の渡しとか、あるいは、さまざまな技術的な面からいうと、はさみとかいろんな刃物を含めた形で、それこそ手描き友禅も松戸でやっていますし、見せられることは幾らでもあると思うんです。ですから、委員の方々からも出ましたけれども、松戸学というか、日本的なものもあるかもしれませんけれども、松戸文化・松戸学みたいな講座を推進していくことも、幾らでも資産としてはあるので。それを２４年前から私は聖徳の生涯学習の中で、「食の松戸物語」とか、そういうのをずっと続けていまして、やってはいるんですけれど、せっかくオリンピックあるいはパラリンピックを契機にもう少しＰＲできるような形で、市民が

触れやすい、体験しやすい、そういうようなところにＰＲできたらと。
　松戸まつりとか、そういうときにオリンピック・パラリンピックで何かやっていますというようなアピールのニュースを出すとか、どうでしょうか。
〇杉浦委員
　そういえば、国体をやりましたでしょう。国体の２年前でしたか、部署をつくったんですよね。
　そのくらい行政で課をつくってやっていただければ、割と能力はたくさん持っていますので、テンションはすごく高いですので、それが始まるようにしていただければね。
〇長江会長
　では、見える化するために、皆さんの意見としては早目にキックオフしていただきたいと、担当部署を。
〇池邉委員
　松戸文化ということで、この行動計画では「松戸ブランド」と言っていますが、まずは松戸を紹介するＤＶＤみたいなものを、例えば英語、中国語、韓国語、本当に短いものでいいですし、松戸ブランドとは一体何か、というのを作る。市民の方でさえ、そんな文化があるのをよく知らない。戸定邸にいらっしゃる方でも、１０年、２０年住んでいるけど初めて、国の重要文化財になったからいらっしゃったみたいなお話もある。あじさい寺も。そういう意味では、海外の方、早目に、とりあえず共通の松戸紹介みたいなものがあって、それをボランティアの方にもまず見ていただく。松戸を紹介できないことにはボランティアもできないので、育成のワークショップとか、プログラムの１つとしてＤＶＤみたいなものを作ってホームページで流す、そこから松戸の紹介が出てくる、そういうことが必要なのかと。
　あと、担当課ではなく、準備室でもいいのかもしれない。要するに、一般市民に対して何か、推進から一歩進んで、もうすぐ来年には担当課ができるんだという雰囲気があって、そこが、ボランティアがどのようにやっていくのか、というコーディネートですね。その辺の力をうまく結集して、どういうふうにすれば、ボランティアの方々が松戸を知って、紹介できるかということ。また斉藤委員には、どういうふうに選手にボランティアの方が接すればいいのか、というようなお話も伺って、早目に、小さなプログラムでもいいので、早目に、今回の成果みたいな形でつくらないと、市民には、２年間私たちは何をやっているのかな、という感じになる気がしました。
〇飯沼委員
　松戸市で５０年ぐらい前、英語と日本語で松戸市の案内をつくったことがあります。その後も国際交流で２回ぐらいつくっているんです。

松戸市の歌とかもあったんですが、平成５年頃に英語と日本語の松戸市内の案内があるので、あれをリニューアルしていけばいいのかなと思います。それを基本にしながら、今できる範囲のものを早目に出しながら改善していくことを、考えるといいかもしれません。

〇長江会長

それでは、ブランド力ということは、やっぱりでき得る限り松戸を紹介する。

〇池邉委員

ビジュアル化ですね。

〇長江会長

ビジュアル化を。それがしっかりできていれば、先ほどのホームページに掲載するというのと、スマホで検索できるようにして。

杉浦委員、観光協会はいかがでしょうか。そういう情報発信などについて。

〇杉浦委員

それをやろうとは思っているんですけども、まだそこまで具体的には進出していないんです。東京オリンピックでやるので、東京に組織委員会が全部あって、松戸は何がお役立ちできるのかなと、東京オリンピックに対して。あれもこれもというわけにもいかないでしょうから、千葉県の食料品、野菜などを供給しようとか、何かそんな話もあったりします。この東京オリンピックで松戸は何がお役立ちできるのかというのも、ちょっとこの辺も議論して、今出ている話の中ですとホームステイ。それはもうできそうな話ですよね。ホームステイで国際化して、いろんな言葉も発すると。じゃあ、ホームステイならホームステイに絞って全面的に押し出して、東京オリンピックに松戸市がお役立ちできるのはホームステイですと。たくさん預かってくれる。何か的が絞れたほうが仕事はしやすいかもしれません。選手の支援、応援といっても、数万円程度で援助したなんていっても、ちょっと寂しい思いもするから、ホームステイならホームステイ。預かるのも結構費用がかかるんです。やっぱりお金を取るわけにはいきませんからね。食事から、どこかへ連れて行くなどしますので。だから、それも含め何か１つ、何がお役に立てるか、もう少し絞り込んだほうが、ここで何ができるか。そこに松戸ブランドができると思うんです。

〇飯沼委員

やっぱり日本人として一番大事なところは、おもてなし、礼儀正しいこと、清潔、規律正しいというところだと思う。それこそ聖徳さんが礼儀作法まで小学校からやっていらっしゃる。やっぱり全部、日本ではそれぞれ考えていらっしゃると思うんですけど、松戸は率先して、やっぱり心あふれる、優しい、そこに行くと非常に楽しくなるようなおもてなしの雰囲気づくり、それがやっぱり基本にあって、それにかかわっていろんなことが出てくると思うんです。だ

から、そういう意味では、本当にいろいろお考えいただいているようでうれしいです。私が海外に行って一番うれしいのは、優しくしてもらうこと。ちょっと声をかけてくれること。日本人はあまりそれをしませんからね。英語がわからなくても日本語で、何か困っていそうなとき言葉をかけてあげると、外国人はすごく喜ぶと思うんです。そういうような気持ちも含めて、優しさ。外国語がわかれば一番いいけど、わからなくても日本人らしい礼儀作法というか、おもてなしとか優しさとか、そういうものが伝わっていくような形になったらいいと思います

なぜこういうお話をしているかというと、もちろん英語とか外国語は大事なんですが、やはり自分のことをしっかり知らないと国際交流はできません。まず松戸のよさ、日本人としてのプライドというか、自分は責任持って日本人ですよ、日本としてこういうふうにできますよ、やりたいですということが言えるような人が松戸市にたくさんいて、そういう気持ちがあふれた人がどこで会ってもいるような、そんな温かい松戸市になったらいいかなと思います。だから、青少年派遣で海外へ行くときも、戸定邸を含めて松戸のよさを必ず英語で高校に行って発表する。それを練習してやっています。まず自分の文化、自分自身のことをしっかり伝えられるということが国際交流の原点だと思います。

高校生はものすごく一生懸命やって、帰ってきたら大変自信を持って、またオーストラリアに行きたい、海外に行きたいと言っています。私も過去を振り返ると、一番覚えがよかったのは中学生のころかと思うんですが、今は小学生、あるいは幼稚園の年長組とか、本当にオリンピックに興味を持って見ていますから、大変感動を受けていると思います。そういう意味で、いろいろ海外に目を向けて、世界の国から２００カ国以上、オリンピックに出る国もかなり多くありますので、その旗を覚えたり、あるいは、興味を持って優勝した国のことを調べたりしています。ちょうどいい機会だと思いますので、伝える手段を具体的に考えるといいと思います。

〇岡本委員

今話を聞いて、私なんか、できればホストファミリーに手を挙げたい。ただそう思いますけれども、古い家だし、手を挙げるとしたら、その前にしっかり耐震診断をして耐震工事あたりはしっかりしておかないといけないと。そうすると、建築屋さんにも仕事ができていいかなと思います。やはり外国から来る人は、日本は地震の国ですから、その安全というのは気になると思うんです。もちろんそういうところに手を挙げる人は、当然、遺漏ないようにしている家だと思いますが、その辺やはり意識して施策を展開していかなければならないのか、という感じがします。私は本当に、やれればやりたいなと思います。

〇長江会長

皆さんのほうからさまざまな御意見が出ました。まず、きちんと見える化 していく。推進していく姿勢を示せる窓口の一本化、ＰＲ、それから、せっかく来ていただくのであれば、日本らしさ、松戸ブランドをわかっていただくような、市民も松戸を知るし、それから、紹介できるような、そんなプログラムの推進。実際にあるものを活用しながらすぐにつくる。あまりお金をかけなくてもできることはどんどん進めていくというようなお話が出たと思います。

国際化という形では、迎え入れるにしてもホテルが少ないので、逆に言うと海外から来るお客さまのおもてなしについて、市民が学習・実践を進める。要するに、今お話があったように、実際来ていただいたときに自宅は大丈夫かというような耐震も含めてのお話。つまり、手を挙げたいんだけれど、うちは大丈夫なんだろうかということの不安を取り除く。そういうようなプログラムを含めてやっていかない限りは絵に描いたもちになってしまう。東京に泊まってオリンピック中に松戸に観光に来てもらうのは、なかなか厳しいと思います。松戸に泊まっていただくからこそ、松戸を知っていただく観光プログラムがあったり、何しろ「東京２４区」で、日本橋まで２０キロしかないし、オリンピックの選手村まで２５キロしか離れていない、という最大の地の利を生かして、まず松戸に立ち寄ってもらってということを目標にする。そういう具体的な姿勢が委員の皆様方から出ました。

それと、いつどういう形で立ち上がっていくのか。ボランティアにしてもいつから募集するんだ、どんなことができるのか、あるいは、それを育成していくプログラムは実際にどうなのかということを具体的に、第５回、それから第６回、推進会議があと２回ありますので、その中で目標をちょっと絞り込んで話を進めさせていただく。それから、２次の推進行動計画の検討ですよね

佐藤真海さんや室伏さんの講演会もそうだったんですが、せっかくすばらしいことをやっているにもかかわらず、人の集まりが少なかったんですね。それで、情報をできるだけ流していただくときに、呼びかけというんでしょうか、広報的なものの力を強化していただきたいと思います。それから、結果について新聞で出るだけでは、市民にわかりにくいので、ケーブルテレビのニュースになるようにお願いしたので、デイリーニュースには出たんです。デイリーニュースは２分とか、コンパクトにまとめてくれて、そういう動画をできる限り普通に、ユーチューブじゃないですけども、流せるようにして、市民にもわかるようにしない限りはやっていることが見えない。きょうの会議の中でも、市がいいことをやっているんですが、市民はこういう会議があることさえわかっていないということで、実際に商工会議所でさえ何をやっているのか質問されても困る、というような状況では、今後大変なことになりかねないので、できる限りＰＲと、それから、その報告も含めてできるだけ見える化 していただき

たいなということがあります。
〇池邉委員
　今後のリオ大会の報告についても、次の活動につなげないと、聞くほうの市民としては、それを聞いて自分たちは何をすればいいのということになるので、ぜひとも今後に生かせるような企画にして、次に向けての出発点だというような感じでやっていただきたいと思います。
〇長江会長
　あと「夢の教室」も、「夢の教室」を受講した小学生たちがオリンピックに対して期待を持つわけです。４年後には中学生になる、その子たちの中で将来的にボランティアをやってみたい子たちがどのぐらいの割合いるのか。アンケートとか登録とか、そういう仕組みづくりなどをしていかないと、やはりやっただけで終わってしまう可能性が高いので、よろしくお願いします。
　それでは、委員の皆さんから最後に、一言ずつよろしくお願いします。
〇薄葉委員
　多分最初は理論的に全部網羅したんですが、できるだけ早く１つのことに注力しながら、周りのことをやっていく。さっき会長がたまたま案内所と言ったら案内所をつくって、そこへ行けば全部わかる。ただし、そうなると施設も必要だし、そこに常駐する人たちも必要です。朝昼晩、１人じゃなくて３人ぐらいいなきゃいけないとか。じゃ、そのお金どうするのと。何かそういう具体的なものをやって、そこから波及するようなことにしていかないと。そういう意味では、具体的なものを１つつくって、そこを中心に１つずつやっていくと、見える化とか、ホームページに出すとかじゃなくて、アナログも含めて、やっているなという感じになると思うんですよね。
〇長江会長
　飯沼委員、よろしくお願いします。
〇飯沼委員
　総合的に考えると、いろんなことが出てくるけど、今もう明らかに誰が見ても正しいし、納得できるということで、わかっているものから即実行していく。先ほどインフォメーションセンター、あるいは、オリンピック関係の案内が松戸市内にあるとか、そういうものも含めて、今まずこれだけは最低限スタートしてオリンピックを迎えるんだなと。リオのあの興奮が冷めないうちに、どこかにシンボル的な何かを始める。もう即始める。もちろんそれに基づいて４年間の、あるいは、これから１０年間、２０年間の国際交流も考えていきますが、とりあえずスタートを切りたいなと思います。
〇斉藤委員
　松戸がほかの市町村と比べてどのぐらいやっているのか、わからないですが、

組織委員会の事前キャンプ候補地ガイドへの掲載も、県内は松戸と成田だけということで、やっぱり一生懸命やっていると思うんです。うちの子が小学生だったころ、パラリンピアンを招待して授業をやっていまして、たまたまうちの子が６年生のときに私が出たんです。ただ、いろんなことを話してもあまり伝わらなかった。でも最後に、風船割をした。実際に、全然動かない手なんですが、工夫して風船を２０メートルぐらい先に打ったら、その１発で子供たちは、大喜びしました。今でも友達なんかに言われるんですが、うちの前にいたりしていると、小学生が「こんにちは」と挨拶してくる。以前はそんな挨拶なんかしなかったんですが、今でもまだいるんです。もう高校生なんですけども。

現実には、ただ、人とか予算が、特に予算がないと、いろいろやるといってもできないですから、皆さんがおっしゃったように、できることからやるしかないのかなと思います。

○杉浦委員

端的にいえば、民間でこの東京オリンピック・パラリンピックをするのに何をやったら商売になるのと。これすら想像力が湧かないんです。松戸で事業をやっていて、何をしたら商売になるのといっても出てこないんです。商売できると思えば今から手をつけなくちゃいけないのに、それすら出てこない。じゃあ、どうしたらいいのというと、もう青少年育成。さっきおっしゃったように青少年を巻き込んだ、いろんな世界の言葉を覚えようとか、それで文化を伝えようとか、武士道を伝えようとか、青少年育成をしようじゃないかというふうな１つのくくりの中でやっていかないと、これで何か商売と思うと出てこないんですね、イマジネーションもクリエーションも。だから、１０年後、青少年が、あのときオリンピックのためにやってよかったねというぐらいの事業として、いろんな言葉で日本の文化を伝える、松戸の文化を伝える、松戸のいろいろないいところを伝えるというのも１つの考え方かと思います。いっぱいありますけど、ちょっとまとめてやられたほうがいいかもしれません。青少年育成ということで。

○長江会長

キーワードは青少年育成。

岡本委員、よろしくお願いします。

○岡本委員

とにかく成果を期待します。皆さんにお願いして成果を期待。検討はいろいろしていますけど、成果ですね。

○池邉委員

戸定邸について担当課から相談を受けていますけれども、耐震工事の話がありました。少しずついろんな日常の予算の中で、このオリンピックに向けてで

きる集約化というのは、それぞれの課で持っている予算、あるいは、補助だとか、いろいろとれるものの中でできると思うんですね。例えば梨、４年後に向けてどういう梨を皆さんに持って帰ってもらうか、ということも、農水省と一緒に開発しようとか、それぞれの課、今集まっていらっしゃる課が直接的にオリンピックを推進するという形で、逆にオール松戸の市役所として各課がオリンピックに向けて何ができるのかということを、もうそろそろ皆さんに投げかけて、各課から、ではうちの予算だとこういうことが、例えば耐震補強とか、今までバリアフリーということだったけれども、そこがやはり地震に向けて、きちんと耐震補強をやっていこうと。市として本当に安全なまちにしようとか、各課でオリンピックに向けて取組みをやっていただかないと、オール松戸でできないのではないかと思います。ぜひとも、市役所全体として何ができるかを、それぞれの課に投げかけて、オール松戸でやられる。それが生涯学習だったり、子供たちだったり、そこら辺は集約化させるべきですけれども、各課に投げかけることが必要であると思いますので、ぜひよろしくお願いします。

〇長江会長

委員の皆さんから、熱い思いを何とか形にする、成果を出す、そのためにどうするか絞り込みをしながら進めるという意見をいただきました。オリンピック・パラリンピック２０２０というのは、日本が２回目のオリンピックを東京で行うことができる。そのときに生きて体験できる。そして、それがスタートラインになる子供たちのためにも、国際化あるいはスポーツ振興も含めた形で、よりよい人生にプラスになるような部分を、つくっていきたいと思います。

私が１９６４年のオリンピックのときは、テレビでしか見ることができませんでした。東京都の小学生、中学生、高校生は実際にオリンピックを見ることができました。市川崑監督のオリンピック映画を、翌年映画館に、高木小の小学生として先生の引率で見に行きました。英語を始めたのもオリンピックがきっかけでした。そういう本当に普通の小学生が、現在もう６０を超しているわけですが、また体験できる中で、多分日本国中の人たちが、何かできたら体験したいと思うのがオリンピックとパラリンピックであると思います。それが遠くだったらできないけれど、松戸だったらできるという、最高の立地条件にあることを、いかに活かすかということです。

ぜひ次回の会議、ことしはあと２回あるということです。今回開催がおくれた理由は、皆様方の予定が合わなかっただけではなく、一番重要なことは、やはりリオのオリンピック後に開かれたことがプラスになるようにすることです。取組みを見える化して、スタートを切ることができるように、私たち推進会議も市役所のおしりをたたきながら、自分たちは市民としてできることは連携していく、その両方が車の両輪となっていく、そうした推進会議でなければいけ

ないと思いますので、よろしくお願いいたします。
　では、本日ほかの委員から頂いたアイデア、そういうものにつきまして、次回、更に具体的な発言をしていただきたく、お願い申し上げます。
　きょうは本当にありがとうございました。